様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　５ 月 ２９ 日現在

機関番号：１０１０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2021～2023
課題番号：２１Ｋ０２１８７

研究課題名（和文）近代日本の高等教育機関における学術研究系譜の形成・展開に関する歴史的研究

研究課題名（英文）Historical Research on the Formation and Development of Academic Fields' Genealogy in Higher Education Institutions in Modern Japan

研究代表者
井上　高聡（Inoue, Takaaki）

北海道大学・大学文書館・准教授

研究者番号：９０３１２４２０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,100,000円

研究成果の概要（和文）：近代日本の農学分野における札幌農学校・東北帝国大学農科大学・北海道帝国大学を起点とした学術研究系譜の形成・展開過程について、札幌農学校開校の1876年から第二次世界大戦後の1940年代までを通観した。①札幌農学校における農学分野の専門分科、②札幌農学校・東北帝国大学農科大学・北海道帝国大学農学部における「文部省外国留学制度」を通じた研究者養成と学科・講座の設置・編成による学術系譜の形成、③1910～30年代における九州・台北・京都・北海道帝国大学の農・理学部の設置・編成及び教員配置に見る学術系譜上の特徴、④1920～40年代における高等農林学校の教員配置と異動による学術系譜の広がりである。

研究成果の学術的意義や社会的意義
近代日本の農学分野が専門分化し、学術研究系譜を形成・展開していく過程を、研究者養成の制度、帝国大学・高等農林学校の設置・編成を視点として考察することにより、帝国大学・高等農林学校それぞれを設置した地域、整備の時期により学科編成や教員の配置に特性があり、それが学術系譜の形成・展開に影響したことを明らかにした。各専門分野の事例に限定した学術史や、個別の大学・高等農林学校の学部・学科・講座の歴史に止まることなく、農学分野相互を比較し、また大学・高等農林学校を横断的に考察した点に、高等教育史研究としての新たな知見を加え得たと考える。

研究成果の概要（英文）：In this research project, we surveyed the formation and development of academic lineages in the field of agriculture in modern Japan, starting from Sapporo Agricultural College, the Agricultural College Tohoku Imperial University, and the Faculty of Agriculture, Hokkaido Imperial University (hereinafter referred to as Hokkaido University), from 1876 to the 1940s. We researched 1) the specialized departments in the field of agriculture at Sapporo Agricultural College, 2) the training researchers through the Ministry of Education's overseas study program, and the formation of academic lineages through the establishment and organization of departments and courses, at Hokkaido University, 3) the characteristics of academic lineages seen in the establishment and organization of faculties at imperial universities in the 1910s to 1930s, and 4) the spread of academic lineages through faculty allocations and transfers at higher agricultural and forestry schools in the 1920s to 1940s.

研究分野：教育史

キーワード：札幌農学校　帝国大学　高等農林学校　学術史　大学史　高等教育史

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

北海道大学は札幌農学校を前身校とし、東京大学は駒場農学校・東京山林学校をルーツ校に数え、共に近代日本における農学の学術形成の中心をなした歴史を持つ。東京、北海道に続き、戦前期に九州・京都・台北の各帝国大学にも農学部等が開学し、農学研究を展開した。また、その研究成果を、多くの旧制専門学校（高等農林学校、高等蚕糸学校、高等園芸学校等）が教授内容に取り入れて専門技術者等を養成し、各地の農事試験場・林業試験場等では地域に適合するよう実用化した。日本国家が海外に進出して植民地を統治・経営する際には、農学が思想、政策、技術の面で理論的・実践的な背景をなした。農学は、近代日本における科学研究の分野として重要な位置を占めていたと言える。農学の学術系譜の形成・展開過程を実証的に検討することにより、近代日本の国家・社会において帝国大学をはじめとする戦前期の高等教育機関が果たした役割の一端を明らかにできると考える。

２．研究の目的

帝国大学や専門学校の農学分野の研究の傾向には各々ローカリティをうかがうことができる。例えば、東京帝国大学では基礎科学的なアプローチ、北海道帝国大学では北海道「開拓」事業との関連、九州帝国大学では地域産業及び朝鮮半島・大陸経営との結びつき、京都帝国大学では林学の比重の大きさ、台北帝国大学では南方植民地経営に適合的な実用技術の重視といった大まかな特徴である。このことは、農学分野の学術系譜の展開の場である帝国大学をはじめとする高等教育機関が、その方向性を定める重要なファクターであったことをうかがわせる。農学分野の学術系譜の展開過程を、高等教育機関の編成やミッションの変遷と関連付けて考察することにより、高等教育機関の主要な機能である学術研究の歴史を、高等教育史の中に新たな視点で実証的に位置付けることが研究の目的である。

３．研究の方法

研究対象とする帝国大学・専門学校及び関係する研究者個人の動向に関する資料としては、国立公文書館、国立国会図書館、京都大学大学文書館、東北大学資料館、岩手大学附属図書館、北海道大学大学文書館、同附属図書館等の所蔵資料を調査した。研究者個人が作成・旧蔵した資料としては、田中義麿旧蔵の日記・記事原稿等、半澤洵旧蔵の日記・書簡等、大島金太郎旧蔵の切抜帳等、星野勇三旧蔵の書簡・日誌等、東海林力蔵旧蔵の書簡、宮部金吾旧蔵の書簡、高岡熊雄旧蔵の書簡（以上、いずれも北海道大学大学文書館所蔵）、八田三郎旧蔵の書簡（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園所蔵）などを調査した。この他、関係者の著述、回想などを参考文献とし、3 年間の研究期間の客年に課題を設定し、研究会における口頭発表や、学会誌・研究紀要等への論文・調査報告の掲載を進め、研究成果を公表した。

４．研究成果

(1)「札幌農学校における農学分野の分化と実科実習の成立」について、以下を明らかにした。1876 年に開校した札幌農学校は、外国人教師を招聘して西洋学問・科学技術の導入を図った。外国人教師は、植物学、農学、数学、化学などの主要専門学科において、多岐にわたる講義を担当した。1886 年設置の北海道庁は、アメリカ留学中の札幌農学校第 1 期生佐藤昌介を教授に任じた。佐藤は、外国人教師中心の教授陣を札幌農学校卒業生へと切り替えた。この過程で、一人の外国人教師が担当した講義を、複数の日本人教員が分担することが可能となり、講義において農学分野の専門分化が進んだ。さらに 1894 年に「実科実習仮規程」を制定し、学生が、農芸化学、植物病理学、農業経済学、農業実習（農芸、牧畜）の 5 コースから専攻を選択する制度を実施した。後の講座制の萌芽である。専門分化した教授陣の下、札幌農学校はさらに専門化した人材を卒業生として送り出し、卒業生から 1907 年の帝国大学昇格後の学科・講座の教員スタッフに加わる人材や、他の帝国大学、専門学校に赴任する人材を輩出していくことになった。

(2)近代日本の「動物遺伝学」系譜の先駆者である田中義麿（札幌農学校 1903～1907 年在学、東北帝国大学農科大学農学科 1909 年卒業）に着目し、日記「未央手記」の解読を進め、動物学研究への萌芽が札幌農学校在学時期に見られることを明らかにした。そして、八田三郎教授（帝国大学理科大学選科 1892 年卒業、「動物発生学」専門）から学術的な刺激・影響も受けて、田中がその系譜に連なることを確認した。

(3)札幌農学校・東北帝国大学農科大学・北海道帝国大学農科大学（1919 年農学部に改称）における「文部省外国留学生」制度の運用の面から、東北帝国大学農科大学（1907 年設置）の講座編成・学術系について、次の内容を明らかにした。札幌では、「文部省外国留学生」制度は、〔1〕札幌農学校の本科の教授候補者、〔2〕農科大学の講座担任及びその教授候補者、〔3〕新設の付設課程（土木工学科、水産学科等）の教授候補者に主に運用されたことが判明した。1907 年 9 月に開学した東北帝国大学農科大学は、4 学科（農学科、畜産学科、農芸化学科、林学科）・12 講

座（農学 2、園芸学、農芸物理学、農政学殖民学、植物学、動物学動物学養蚕学 3、畜産学、農芸化学 2）の編成で始まり、前身の札幌農学校の本科の 6 つの実科演習（【1】農学甲科〔農学〕、【2】農学乙科〔畜産学〕、【3】農芸化学、【4】農業経済学、【5】植物病理学、【6】農用動物学）が基盤となった。そして、実科演習を主宰した教官（【1】南鷹次郎、【2】橋本左五郎、【3】吉井豊造・大島金太郎、【4】佐藤昌介、【5】宮部金吾、【6】八田三郎・松村松年等）の研究分野が後継者のもとで細分化・専門化され、新設講座に引き継がれ、学術的な系譜になった。一方、林学科、畜産学科第二部（獣医学、1912 年分科）に属する講座の担任教授は、1920 年代半ばまで、東京帝国大学農科大学（前身の東京農林学校等を含む）の卒業生（林学士、獣医学士）が占めた。

(4) 1910～1930 年代帝国大学に新設された農学部・理学部（生物学系）の講座編成・学術系譜の特徴について、学部創設委員や担任教授等の教官に就いた札幌農学校・東北帝国大学農科大学・北海道帝国大学農学部の卒業生の動静から、以下の内容を明らかにした。

①九州帝国大学では農学部設置前より演習林を有したことから、農学部（1919 年設置）には 3 学科（農学科・農芸化学科・林学科）が配置された。一方、1930 年まで理学部が設置されなかったため、農学部農学科の生物学系の講座編成が、植物学 2 講座（生理学、病理学）、動物学 2 講座（発生学、昆虫学）、養蚕学講座という、理学・農学両分野の折衷的な編成となった。この折衷的な編成は、札幌（東北帝国大学農科大学）の講座編成にも見ることができる。九州帝国大学農学部には、田中義麿が「養蚕学講座」の初代教授（1924～1945 年）につき、田中のもとで、川口栄作・林禎二郎といった北海道帝国大学出身者が助教授をつとめた。田中は札幌及び福岡において、家蚕の品種改良を研究対象とした「動物遺伝学」を展開した。また、蓮見道太郎（1913 年卒業）が林学科の助教授として 1924 年赴任し、砂防工学・森林工学を担当、のちに「林学第六講座」の担任教授についた。

②台北帝国大学理農学部（1928 年設置）の農学系講座は、【1】農学（作物学・園芸学・育種学等）、【2】畜産学、【3】農芸化学、【4】農業経済学、【5】植物病理学、【6】応用動物学（昆虫学）を基軸とした、北海道帝国大学農学部と相似の講座編成をとりながら、熱帯地域での農作物・産業（特に製糖業）に特化した研究が行われた。北海道帝国大学農学部唯一であった「応用菌学講座」が、理農学部には開学当初から設置された。1943 年農学部として独立後の講座数は 19 を数え、農芸化学系の講座は 7 講座（生物化学、農芸化学 3、応用菌学、製糖化学、醸造学）に達した。担任教授は、札幌農学校・東北帝国大学農科大学出身者が大部分を占めた。上記の講座編成・人材配置は、前述の大島金太郎（1893 年卒業）が大学創設準備委員であり、初代理農学部長についたこと、札幌での後進育成・研究者の輩出の時期が 1920 年代後半で揃ったことなどが背景にある。

③京都帝国大学農学部（1923 年設置）には、植物学（病理学・生理学）、園芸学、農芸化学（栄養化学）の 3 分野で、東北帝国大学農科大学出身者 4 名が担任教授となった。逸見武雄（植物病理学講座）、木原均（実験遺伝学講座）、並河功（園芸学第一講座）、近藤金助（栄養化学講座）である。この契機は、理学部に生物学科が新設されることになり、郡場寛（東北帝国大学農科大学教授）が 1917 年生物学教室開設設計に関する顧問を嘱託され、1920 年理学部教授（植物学講座）となったこと、1921 年には農学部創設委員も嘱託されたことにある。農学部創設委員であった石川日出鶴丸（医学部教授）が、宮部金吾に宛てて教官候補者の推薦も依頼していた。上記 4 名はいずれも 30 歳代前半、京都帝国大学農学部には新進気鋭の研究者が選ばれた。

④北海道帝国大学理学部（1930 年設置）では、田所哲太郎（1910 年卒業）が第二代理学部長をつとめ、化学第三講座（生物化学）を主宰した。生物学系の講座編成・教官銓衡は、創立委員となった宮部金吾・八田三郎のもとで行われた。植物学 3 講座（生理学、分類学、形態学）、動物学 3 講座（系統動物学、形態学）が編成され、坂村徹（植物生理学）・小熊捍（動物形態学・遺伝学）が農学部から配置換えとなる一方、30 歳代前半の東京帝国大学理学部出身者（山田幸男、内田亨）を選考して、海産動植物（藻類、クラゲ・イソギンチャク等の刺胞動物）を対象とした「系統分類学」を理学部の生物学系に託したのが特徴的である。

(5)「札幌農学校を起点とする学術系譜の高等農林学校への広がり」について、以下を明らかにした。農学・林学・養蚕学系の専門学校（以下、高等農林学校）は、1903 年の専門学校令制定により設置が進み、1910 年前後、1920 年代前半、1944 年以降の 3 期に増設・拡張の大きな動きがあり、札幌農学校・東北帝国大学農科大学・北海道帝国大学農学部の卒業生の有力な就職先となった。特に、最初に開校した盛岡高等農林学校（1902 年設置）や、校長を輩出した鳥取高等農業学校（1920 年設置、山田玄太郎・角倉邦彦）、台湾総督府高等農林学校（1922 年設置、大島金太郎）、岐阜高等農林学校（1923 年設置、東海林力蔵・草場栄喜・米山豊・山枡忠好・小瀬伊俊）、北海道内の帯広高等獣医学校（1941 年設置）には、多くの卒業生が赴任した。また、高等農林学校は帝国大学出身者を教授に迎え、自校卒業生が着任することは稀であり、離任者があった場合は同窓の出身者が後任を占めることが多かった点に、帝国大学とは異なる学術系譜形成上の特徴を有した。こうした学術系譜形成は、新制大学への改組に伴う教員配置にも大きく影響した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計7件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　6件）

１．著者名 井上高聡	４．巻 第18号
２．論文標題 札幌農学校における農学分野の分化と実科演習の成立	５．発行年 2023年
３．雑誌名 北海道大学大学文書館年報	６．最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 山本美穂子	４．巻 第18号
２．論文標題 札幌農学校・東北帝国大学農科大学における「文部省外国留学生」の派遣とその背景	５．発行年 2023年
３．雑誌名 北海道大学大学文書館年報	６．最初と最後の頁 17-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 山本美穂子	４．巻 第9号
２．論文標題 半澤洵、精巧なる筆致の世界	５．発行年 2022年
３．雑誌名 北海道大学150年史編集ニュース	６．最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 井上高聡	４．巻 第42号
２．論文標題 札幌農学校の官員養成と北海道	５．発行年 2022年
３．雑誌名 地方教育史研究	６．最初と最後の頁 79-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 山本美穂子	4．巻 第17号
2．論文標題 田中義麿日記「未央手記」をめぐって（一）	5．発行年 2022年
3．雑誌名 北海道大学大学文書館年報	6．最初と最後の頁 1-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 井上高聡、山本美穂子	4．巻 第4号
2．論文標題 札幌農学校を起点とする学術研究系譜の形成・展開	5．発行年 2024年
3．雑誌名 北海道大学大学文書館叢書	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 山本美穂子	4．巻 第10号
2．論文標題 宮部金吾博士の象徴　クロビイタヤ	5．発行年 2023年
3．雑誌名 北海道大学150年史編集ニュース	6．最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　1件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 井上高聡
2．発表標題 札幌農学校の官員養成と北海道
3．学会等名 全国地方教育史学会（招待講演）
4．発表年 2021年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

北海道大学大学文書館年報 https://www.hokudai.ac.jp/bunsyo/publication.html 北海道大学150年史編集ニュース https://www.hokudai.ac.jp/bunsyo/hu150_publications.html 北海道大学大学文書館叢書 https://www.hokudai.ac.jp/bunsyo/publication.html

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	山本　美穂子 (Yamamoto Mihoko) (70455583)	北海道大学・大学文書館・特定専門職 (10101)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関